

## 高等学校における保健学習の現状と課題

青柳直子\*

(2015年9月15日受理)

Current situation and assignment of health education classes in high schools.

Naoko AOYAGI

キーワード：保健学習，高等学校保健体育科科目保健，性に関する学習

本研究では，大学生 611 名を対象として，高等学校時における保健学習の状況，イメージ，関心度，現在の健康に関する認識について，無記名自記式質問票を用いて検討を行った。結果として，保健学習の重要性や必要性，健康観についてはかなり肯定的に捉えている様子がかがえた。一方，保健学習への関心・意欲については低い傾向がみられた。学習教材として多く用いられていたのは，教科書もしくは教科書とワークシートの併用形式であった。保健学習での既習内容を日常生活において実践したり，振り返ったりすることは少ない様子が見られた。性に関する学習については，中学校・高等学校においてはほぼ実施されており，思春期における性機能の成熟や妊娠のしくみ，性感染症に関する項目については学習実施率が高かった。以上の結果より，保健学習のさらなる充実を図るため，生徒の興味・関心，意欲を高めるような学習方法の工夫や学習教材の開発などが，今後より一層必要であることが示唆された。

### はじめに

近年のライフスタイルや社会環境の急激な変化は，学齢期の子どもの心身の健康に大きく影響を及ぼしている。児童生徒の健康課題の多様化・深刻化をふまえて，これらの様々な課題へ適切に対応できる資質・能力を身に付けることが求められている。このような状況により，学校における保健学習の重要性はますます高まり，児童生徒の発達段階に応じて充実を図ることがより必要となってきた。

そこで本研究では，保健学習のさらなる充実を図るため，高等学校に焦点を当てて保健学習の現状把握を行い，課題について検討することを目的とした。また，児童生徒の健康課題の中で特に

---

\*茨城大学教育学部

性に関する問題が急増している状況（日本性教育協会 2013）や、担当教員が性に関する学習・指導に困難感を持つことが指摘されている現状（鹿間 2014, 槌谷ら 2009）をふまえ、保健学習の内容のうち、性に関する学習状況について項目別に検討を行った。

## 研究方法

### （1）調査対象者・調査方法

2014年4月～2015年6月に、関東地区の大学（2校）に在籍する1年次～4年次の大学生 611名を対象として、集合法にて回想法による無記名自記式質問紙調査を行った。

### （2）調査項目

高等学校での保健学習に関する内容、学習教材、学習意欲、保健学習に対するイメージ、既習内容に関する現在における活用状況、現在の健康に関する認識について、4件法もしくは5件法で尋ねた。性に関する学習内容については項目毎に3件法で尋ねた。

### （3）解析方法

得られたデータの集計には、統計ソフト IBM SPSS Statistics 20 for Windows を使用した。欠損値については項目毎に解析対象より除外した。

### （4）倫理的配慮

研究の主旨、個人情報保護方針、結果は統計的に処理するため個人が特定されることはないこと、得られた情報は本研究以外に使用することはないこと、調査への参加・回答は任意であること、成績には一切関係しないことなどに関する説明を調査票へ記載した。また調査開始時に本調査責任者が直接口頭で対象者へこれらの説明を行った。調査票の提出をもって、本人より調査への同意を得たと判断した。

## 結果・考察

### （1）本調査の対象者

本調査の対象者 611 名の内訳は、男性 239 名 (39.1%)、女性 367 名 (60.1%)、未記入 5 名 (0.8%) であった。学年は 1 年次 161 名 (26.4%)、2 年次 367 名 (60.1%)、3 年次 70 名 (11.5%)、4 年次 9 名 (1.5%)、未記入 4 名 (0.7%) であった。

### （2）高等学校における保健学習の状況

対象者が保健学習についてどのような考え方やイメージを持っていたかについて、表 1 に示した。「保健の学習は大切だ」、「保健の学習は健康な生活を送るために重要だ」という項目に「そう思う」、

「どちらかと言えばそう思う」と考えていた者は90%以上を占めた。また、「保健の学習は学校での勉強において必要だ」との項目においては9割近くの者が「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、保健学習の重要性を強く感じていたことが分かった。

一方、「保健の学習が好きだ」、「保健の学習は面白い」、「保健の学習は楽しい」との項目に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と考えていた者は約40%であり、「そう思わない」と考えていた者は2割にのぼることが分かった。

以上の結果より、高等学校での保健学習の重要性は強く感じてはいるが、学習自体には面白さや楽しさを感じていないことが示唆された。これらの実態については高校3年生を対象とした調査でも同様の傾向が指摘されている（日本学校保健会，2012）。日本学校保健会（2012）の調査結果によると、「保健の学習が好きだ」に対して「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」との回答は38.0%（本調査46.2%）、「保健の学習は楽しい」は34.0%（同40.9%）、「保健の学習は大切だ」90.6%（同96.7%）であり、保健学習に対する考え方については、いずれの項目においても同様の傾向がみられた。保健学習に対する興味・関心や意欲を持たせるような学習指導の在り方や授業の工夫が今後より必要であると言えよう。

表1 高等学校での保健学習に対する考え方・イメージ

質問項目	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	合計
1) 保健の学習が好きだ	度数 45	237	199	97	33	611
	% 7.4	38.8	32.6	15.9	5.4	100.0
2) 保健の学習は大切だ	度数 354	237	17	2	1	611
	% 57.9	38.8	2.8	0.3	0.2	100.0
3) 保健の学習をすれば、私の今の生活に役立つ	度数 239	310	41	13	8	611
	% 39.1	50.7	6.7	2.1	1.3	100.0
4) 保健の学習をすれば、健康な生活が出来るようになる	度数 128	327	97	47	12	611
	% 20.9	53.5	15.9	7.7	2.0	100.0
5) 保健の学習は面白い	度数 57	205	229	101	19	611
	% 9.3	33.6	37.5	16.5	3.1	100.0
6) 保健の学習は健康な生活を送るために重要だ	度数 245	313	36	11	6	611
	% 40.1	51.2	5.9	1.8	1.0	100.0
7) 保健の学習をすれば心や身体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ	度数 96	286	149	55	25	611
	% 15.7	46.8	24.4	9.0	4.1	100.0
8) 保健の学習は楽しい	度数 57	193	237	108	16	611
	% 9.3	31.6	38.8	17.7	2.6	100.0
9) 保健の学習は学校での勉強において必要だ	度数 231	304	46	17	13	611
	% 37.8	49.8	7.5	2.8	2.1	100.0
10) 保健の学習をすれば社会に出てからの生活に役立つ	度数 200	332	53	13	13	611
	% 32.7	54.3	8.7	2.1	2.1	100.0
11) 保健の学習をすれば国民全体の健康づくりに役立つ	度数 144	315	101	28	23	611
	% 23.6	51.6	16.5	4.6	3.8	100.0

N=611

次いで、高等学校での保健学習で最も多く活用されていた学習教材について、学年別に表2に示した。授業で用いられている教材は教科書のみ、もしくは教科書とワークシートの併用のケースが約9割を占め、ビデオやDVDなどの視聴覚教材の活用は極めて低い結果であった。視聴覚教材は多様な情報を伝えられることや注目を引きやすい教材として有効であることが指摘されている（杉山ら2009）。本調査においても、学習教材に関する自由記述回答によるとDVDを用いた学習について

は「学習内容に興味湧いた」、「面白かった」、「分かりやすかった」などの肯定的な感想が多く挙げられていた。しかしながら、学年に依らず保健学習におけるこれらの教材の積極的な活用はあまり進んでいない様子がうかがえた。本研究では未検討であったグループワーク、ロールプレイングなどの他の学習方法の活用状況についての検討は今後の課題としたい。

表2 高等学校での保健学習で最も多く活用されていた学習教材

学年		教科書のみ	ワークシート	教科書・ ワークシート	ビデオ・DVD	その他	合計
		度数	度数	度数	度数	度数	
高校1年次	度数	269	16	265	28	29	607
	%	44.0	2.6	43.4	4.6	4.7	99.3
高校2年次	度数	246	17	265	37	34	599
	%	40.3	2.8	43.4	6.1	5.6	98.0

N=611

高等学校での保健学習に対する感想および授業中の態度について、学年別に表3に示した。

最も回答が多かった感想は「楽だった」（高校1年次 34.0%，高校2年次 33.1%）であった。次いで多かったのは「つまらなかった」（高校1年次 24.2%，高校2年次 21.8%）であり、およそ半数以上が「楽だった」もしくは「つまらなかった」と回答していた。また、「授業中は寝ていた」、「授業中は他教科の勉強をしていた」との回答は両学年とも 10%程度みられた。表2で示されたように、学習教材の活用不足が「授業のつまらなさ」につながり、ひいては学習内容へ興味・関心を持つことや授業への集中の妨げになっている要因の一つであることが推察された。

表3 高等学校での保健学習に対する感想および授業中の態度

学年		楽だった	楽しかった	面白かった	厳しかった	つまら なかった	授業中は寝 ていた	授業中は他 教科の勉強 をしていた	その他	合計
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	
高校1年次	度数	208	68	59	16	148	32	17	23	571
	%	34.0	11.1	9.7	2.6	24.2	5.2	2.8	3.8	93.5
高校2年次	度数	202	74	62	17	133	34	24	16	562
	%	33.1	12.1	10.1	2.8	21.8	5.6	3.9	2.6	92.0

N=611

### (3) 高等学校での保健学習（既習内容）に関する現在における活用状況

保健学習の既習内容に関する日常生活における実践状況について、表4に示した。

既習内容を日常生活に活かしている者は、「している」、「どちらかと言えばしている/活かしている」を合わせて 30%程度であった。前述したとおり、保健学習はその重要性は認識しつつも、既習内容の活用・実践にはそれほど結びついていない様子がうかがえた。

一方、インターネットなどのメディアを利用した情報収集は、全体の半数の者が日頃から実施していた。学習効果を高めるため、保健学習においては課題学習などにおける情報通信ネットワークなどの活用は今後より一層重要となる。このため、適切な活用のためにもメディアリテラシーの向上は保健学習の充実においてより必要となると言えよう。

表4 高等学校での保健学習（既習内容）に関する現在における活用状況

質問項目		している	どちらかと言えば		していない/活かしていない	合計
			している/活かしている	していない/活かしていない		
1) 高校の保健学習の内容をもとに自分の生活や身の回りの環境について振り返ったり考えたりしていますか	度数	31	148	290	140	609
	%	5.1	24.2	47.5	22.9	99.7
2) 高校の保健学習の内容を自分の生活に活かしていますか	度数	34	201	278	97	610
	%	5.6	32.9	45.5	15.9	99.8
3) テレビや新聞、インターネットなどで健康に関する情報を見たり調べたりしていますか	度数	97	209	199	106	611
	%	15.9	34.2	32.6	17.3	100.0

N=611

#### (4) 健康の価値に関する認識状況

現在における健康の価値に関する認識の様子について、表5に示した。

「健康は何をするにも必要だ」との回答は、「そう思う」が76.8%であり、「どちらかと言えばそう思う」(22.1%)を合わせると、ほとんどの者が「必要である」と考えている様子がみられた。また、「健康は幸せな生活を送るために重要だ」との回答についても、「そう思う」が70.9%であり、「どちらかと言えばそう思う」(26.5%)を合わせると、ほとんどの者が「重要である」と考えている様子がみられた。

一方、「健康は何よりも大切だ」との回答は「そう思う」が56.0%であり、他項目より低かった。充実した幸せな生活のために健康は必要であるとの認識はあるが、場合によっては健康の保持増進よりも他の活動を優先するよう状況がある様子が見られた。

表5 健康の価値に関する認識状況

質問項目		そう思う	どちらかと言えば		そう思わない	わからない	合計
			そう思う	そう思わない			
1) 健康は何をするにも必要だ	度数	469	135	4	3	0	611
	%	76.8	22.1	0.7	0.5	0	100.0
2) 健康は何よりも大切だ	度数	342	223	31	7	8	611
	%	56.0	36.5	5.1	1.1	1.3	100.0
3) 健康は幸せな生活を送るために重要だ	度数	433	162	11	1	3	610
	%	70.9	26.5	1.8	0.2	0.5	99.8

N=611

#### (5) 性に関する学習の実施状況

小学校から高等学校までで、性に関する学習を行ったかどうかを校種別にまとめた(表6)。

性に関する学習は学習指導要領にも学習内容として位置づけられているが、中学校 (91.3%)、高等学校 (93.1%) においては学習がほぼ行われている様子がみられた。

表6 性に関する学習の実施状況 (校種別)

学校種		はい	いいえ	おぼえていない	合計
小学校	度数	384	40	178	602
	%	62.8	6.5	29.1	98.5
中学校	度数	558	7	37	602
	%	91.3	1.1	6.1	98.5
高等学校	度数	569	9	24	602
	%	93.1	1.5	3.9	98.5

N=611

次いで、性に関する学習内容の実施状況 (保健学習や保健授業を受けたかどうか) について、学習項目別に示した (表7)。

学習実施項目は、多い順に「男女の身体のしくみ」(96.9%)、「HIV/エイズ」(96.9%)、「避妊方法」(93.8%)、「妊娠のしくみ」(92.6%)、「性感染症 (クラミジア, 淋病など)」(92.6%)であった。思春期における性機能の成熟や妊娠と健康、性感染症に関する項目は学習実施率が高かった。

学齢期の子どもに関する現状として、著しい体格向上に伴う性的成熟の早期化がみられる。性行動の低年齢化・活発化、望まない妊娠、性感染症や性被害の増加などの問題も深刻化している。また、性情報の氾濫や性産業の拡大など、若年層を取り巻く社会環境も大きく変化している。晩婚化、不妊治療や高齢出産の増加などの現状をふまえると、保健学習において今後は妊よう性の問題についても大きく取り上げられると考えられる。これらの性に関する知識の理解・習得が適切な性行動や行動選択に結びつくような授業や保健指導を行う必要性はさらに増していくといえよう。

一方、学習実施が低い項目は、「性同一性障害」(32.7%)、「性の不安・悩みについての相談窓口」(46.8%)であった。「性同一性障害」に関しては、現行の学習指導要領には盛り込まれていない (文部科学省 2008)。しかし、学校における性同一性障害の児童生徒への支援についての社会の関心の高まりを受けて、平成 27 年 4 月に文部科学省は同性愛、性同一性障害などを含む性的少数者である児童生徒への学校での対応例をまとめ、全国の教育委員会などに通知した (文部科学省 2015)。これらより、保健指導や総合的な学習の時間などを活用して、児童生徒の知識・理解を深めるようにするとともに、十分な配慮と支援を行うことができるような教職員の校内体制作りが求められている。

表7 性に関する学習内容の実施状況（項目別）

学習項目		受けた	受けてい ない	おぼえて いない	合計
男女の身体のしくみ	度数	592	2	6	600
	%	96.9	0.3	1.0	98.2
男女の心理の違い	度数	397	63	141	601
	%	65.0	10.3	23.1	98.4
恋愛	度数	308	126	165	599
	%	50.4	20.6	27.0	98.0
結婚生活	度数	317	124	159	600
	%	51.9	20.3	26.0	98.2
妊娠のしくみ	度数	566	13	22	601
	%	92.6	2.1	3.6	98.4
性交(セックス)	度数	442	89	68	599
	%	72.3	14.6	11.1	98.0
避妊方法	度数	573	9	19	601
	%	93.8	1.5	3.1	98.4
人工妊娠中絶	度数	515	30	56	601
	%	84.3	4.9	9.2	98.4
HIV/エイズ	度数	592	2	7	601
	%	96.9	0.3	1.1	98.4
性感染症(クラミジア, 淋病など)	度数	566	14	21	601
	%	92.6	2.3	3.4	98.4
セクシャルハラスメント	度数	412	58	129	599
	%	67.4	9.5	21.1	98.0
性の不安・悩みについての相談窓口	度数	286	104	210	600
	%	46.8	17.0	34.4	98.2
性同一性障害	度数	200	197	204	601
	%	32.7	32.2	33.4	98.4

N=611

## まとめ

児童生徒が心身ともに健やかに日常生活を過ごし、生涯を通じた健康作りの基礎を培うために、学校保健活動は必要不可欠である。児童生徒が抱える健康課題の多様化・深刻化が進んでいる現状をふまえると、その中心とも言える保健学習の充実はより一層求められていると言えよう。

本研究で得られた結果の解釈については、想起法による限界はあるが、保健学習の重要性や必要性、健康観については肯定的に捉えている様子がうかがえた。一方、保健学習への興味・関心や意欲については低い様子がみられた。保健学習の充実には、生徒の興味・関心や学習意欲を高めるような学習方法や学習教材の工夫・開発が今後より一層必要であることが示唆された。

## 引用文献

- 文部科学省. 2008. 『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』(東山書房).
- 文部科学省初等中等教育局児童生徒課. 2015. 「初等中等教育局児童生徒課通知第3号 性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」, 文部科学省.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/27/04/1357468.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm) (最終アクセス日 2015/09/14)
- 日本学校保健会. 2012. 『保健学習推進委員会報告書 -第2回全国調査の結果-』(日本学校保健会).
- 日本性教育協会. 2013. 『「若者の性」白書-第7回青少年の性行動全国調査報告-』(小学館).
- 鹿間久美子・岩崎保之・中村千景・時田詠子・佐光恵子. 2014. 「高等学校における養護教諭の性教育推進に向けた方策に関する研究～調査結果を基にした『性教育推進における段階別確認進捗表』の作成～」『思春期学』32(4), 388-403.
- 杉山重利・高橋健夫・園山和夫. 2009. 『保健体育科教育法』(大修館書店).
- 樋谷亜希子・篠木絵理・藤井可苗・阿保順子・横井寿之. 2009. 「高校生の性と性教育に対する教員の意識」『北海道医療大学看護福祉学部紀要』16, 69-73.